

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年2月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告が急増しています。
- 海外からの輸入感染症の報告が増加しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しています。
- 感染性胃腸炎の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年1月20日～2月23日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
腸管出血性大腸菌感染症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6件
E型肝炎	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
デング熱	1件	水痘(入院例に限る)	2件
マラリア	1件	梅毒	25件
レジオネラ症	2件	播種性クリプトコックス症	1件
アメーバ赤痢	1件	百日咳	64件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件		

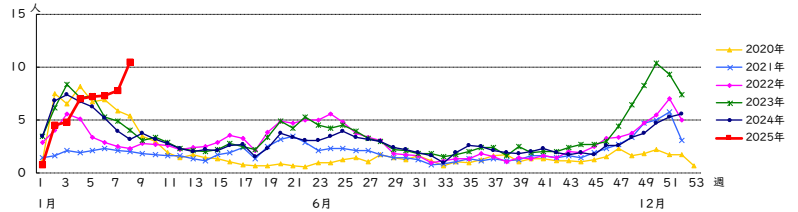
1. **細菌性赤痢**:60歳代で、菌種は sonnei(D群)です。海外(エジプト)での感染が疑われますが、感染経路等は不明です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～40歳代で、O血清群はO157が1件、O152が1件、不明が2件です。いずれも感染経路等は不明です。
3. **E型肝炎**:30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
4. **デング熱**:20歳代で、海外(インドネシアまたは台湾)での蚊からの感染と推定されています。
5. **マラリア**:50歳代で、病型は熱帯熱マラリアです。海外(コンゴ民主共和国)での蚊からの感染と推定されています。
6. **レジオネラ症**:40歳代及び80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
7. **アメーバ赤痢**:60歳代、腸管アメーバ症です。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
8. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代～80歳代で、血清群はA群2件、B群1件、G群2件です。創傷感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:いずれも20歳代で、感染経路は性的接触(同性間2件)と推定されています。
11. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴3回1件、無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
12. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴1回2件、無1件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
13. **水痘(入院例に限る)**:30歳代及び50歳代(ワクチン接種歴1回1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
14. **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期15件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者3件です。性的接触による感染と推定される報告が22件(異性間17件、詳細不明5件)、感染経路等不明が3件です。
15. **播種性クリプトコックス症**:70歳代で、感染経路は免疫不全によるものと推定されています。
16. **百日咳**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回44件、3回2件、無4件、不明12件)で、家族内感染と推定される報告が14件、周囲の流行と推定される報告が10件、感染経路等不明の報告が40件です。
17. **薬剤耐性アシネトバクター感染症**:80歳代で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第 4週	1月20日～1月26日
第 5週	1月27日～2月 2日
第 6週	2月 3日～2月 9日
第 7週	2月10日～2月16日
第 8週	2月17日～2月23日

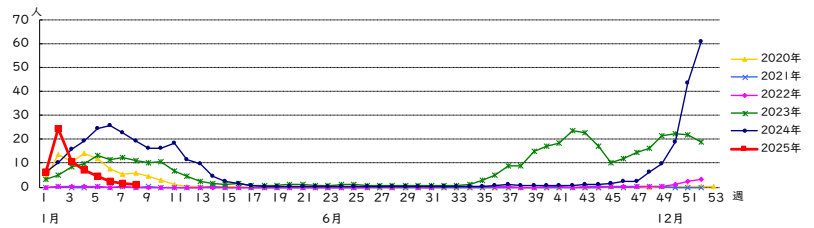
1 感染性胃腸炎

2025年第2週(1月6日～1月12日)以降増加しており、第8週は10.47です。



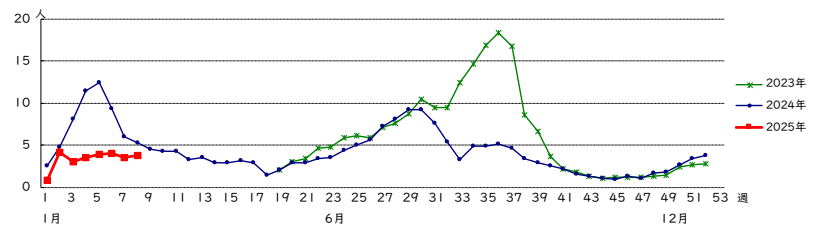
2 インフルエンザ

2024年10月下旬に流行期に入りました。第50週(12月9日～12月15日)に流行注意報の発令基準(10.00)を、第51週に43.33で流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。第52週は60.52と急増しました。2025年第3週以降、減少傾向が続き、第4週に終息基準値(10.00)を下回りました。第8週は1.26です。



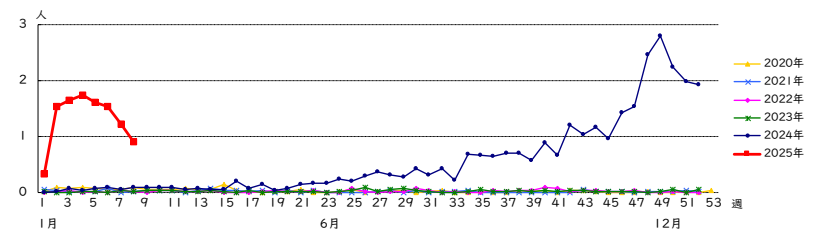
3 新型コロナウイルス感染症

2024年第48週(11月25日～12月1日)以降増加傾向に転じました。年末年始は定点医療機関の休診に伴い、流行の実態を正確に反映していないと考えられますが、2025年第3週以降、年末と同程度の報告数が続いています。第8週は3.75です。



4 伝染性紅斑

2024年第48週に流行警報発令基準値(2.00)を上回り、第49週(12月2日～12月9日)にピークを迎えました。2025年第2週以降も高い値で推移していましたが、減少傾向に転じています。第8週は0.89で、終息基準値(1.00)を下回りました。



5 性感染症(2025年1月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:2件	淋菌感染症	男性:9件	女性:1件

6 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.50	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.25	0.00	0.00	0.75	0.00

7 基幹定点月報(2025年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

2025年第4週～第8週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点11件、基幹定点3件でした。

3月3日現在、表に示した各種ウイルスの分離22株と遺伝子10件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2025年第4週～第8週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	腸 炎
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	2 -		14 -	
インフルエンザウイルス AH3型			3 -	
インフルエンザウイルス B型(victoria系統)			1 -	
ヒトコロナウイルス OC43型	- 2			
ヒトコロナウイルス HKU1型		- 1		
パラインフルエンザ 3型	- 1			
アデノウイルス 1型		1 -		
アデノウイルス 5型	1 -			
アデノウイルス 41型				- 1
ライノウイルス	- 2			
RSウイルス	- 1			
ヒトメタニューモウイルス		- 2		
合 計	3 6	1 3	18 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025 年第 4 週～第 8 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 6 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 6 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 5 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 4 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所から肝膿瘍の遺伝子検索 1 件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎 3 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025 年第 4 週～第 8 週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	6	O111 : H- VT1 (1) O152 : H7 VT2 (1) O157 : H7 VT2 (1) Og76 : Hg19 VT1 (1) Og150: Hg10 VT2 (1) OgN11 : H19 VT1 (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (5) <i>Haemophilus influenzae</i> a型 (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型検査中 (1) B群溶血性レンサ球菌 V型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2) <i>Escherichia coli</i> (1) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 19A (1)	
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	肝膿瘍	1	穿刺液	<i>Klebsiella pneumoniae</i> 16SrRNA遺伝子陽性 (1)
小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】